

第13回仙台城跡調査・整備委員会  
議事録（要約版）

- I. 開催日時 令和5年11月1日（水）10時30分～11時40分（委員会）
- II. 開催場所 オンワード樫山ビル 10階
- III. 出席者 （委員） 藤澤 敦（委員長）  
北野博司（副委員長）  
稲葉雅子  
大山幹成  
籠橋俊光  
風間基樹  
永井康雄（オンライン参加）  
能勢和彦  
深澤百合子  
（宮城県） 生田和宏  
齋藤和機  
（事務局） 教育局文化財課  
文化観光局観光課  
文化観光局交流企画課  
建設局百年の杜推進課  
建設局公園整備課  
青葉区道路課  
青葉区公園課  
仙台市博物館  
（報道機関） 建設通信新聞  
建設新聞  
河北新報

IV. 傍聴人 ー

※会議録の署名について委員長は大山委員を指名

## 1 開会

## 2 部長挨拶

## 3 議事

### 〔1〕令和5年度大手門跡発掘調査の成果について

【資料1】に基づき事務局より発掘調査の状況について説明。

委員長： ただいまの説明について委員の皆様、ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

永井委員： 第25図を見ると、今の脇櫓が大手門の建つ位置にかぶっているということか。

事務局： 大手門脇櫓と書いている図面上の輪郭については屋根の部分のラインになっているので、門が少し内側に入っているような状況になっている。

永井委員： 下の石垣の部分なども、大手門とは重なっていないというように考えてよいか。

事務局： 再建の際に若干脇櫓の位置が動いている可能性があり、東端の門の礎石も確認されていないので、どれくらい脇櫓と重複しているかは不明なところがある。今回の調査成果から見ると、脇櫓の石垣も、脇櫓を再建する際に石垣ごと少しずらして、再建されている可能性があるということがわかってきている。そのためこの大手門の南東隅の礎石については、今回の調査範囲でははっきりわからなかったが、石垣の下に来ている可能性もゼロではないという状況になっている。これについては、今回石垣の下までは調査ができないので、どこまで調査できるのかを検討しているというような段階である。

永井委員： 了承した。

北野副委員長： 資料1-6で、第26図の古写真と今回見つけた側溝のラインについて、調査成果では脇櫓が再建した時にずれたのではないかという話があった。ただし、第26図で側溝のラインと脇櫓の妻側の面が少し見えているが、この古写真の時点でもう平行ではない可能性があると思う。第27図の昭和13年の測量図でも側溝のラインと脇櫓の線が平行になっているが、L字に折れた側をよく見ると少しずれていたりする。古写真解析をすれば、これが平行かどうかはある程度レンズの歪みも含めてわかると思うので、あまり平行だったと決めつける必要はないかと思われる。そういった手続きを経た上で、考えてもらった方がいい。

事務局： 今も戦後の層が石垣の下まで伸びているのかも含めて考えないと、脇櫓がずれて再建されたかの判断が難しいと考えているので、ご指摘も踏まえながら検討したい。

委員長： 今後の大手門復元の可否を含め、脇櫓との関係は課題になってくると思われるので、今後の調査で確実なことをできるだけ掴んでいくということが必要だと思われる。

委員長： 戦災で焼けた後の改変がかなり大きかったのは残念ではあるが、見つけた遺構

が礎石跡であると委員の皆さんに認めていただければ、それが見つかったというのは非常に大きな成果ではないかと考えている。掘方と根固め石の一部が残っているという状況だが、その辺の遺構の状況についてご質問や或いはご意見ございますか。

北野副委員長： 深さのデータが今回何cmということははっきり書かれてないが、礎石根固めの下のレベルと地表面のレベルの差はどれぐらいになっているのか。近年、色々な近世城郭の御殿の礎石や根固めが発掘されている事例があり、100 cmを超えるような大規模なものもある。根固めをそこまで掘る事例が普通はないために、このように断面で見られるということは逆に珍しい。今日見た印象では、割と均質な円礫が集まっているが、円礫と円礫があまり密に接してなくて、間に土が入っているような少しルーズな印象を受ける。ただし上面の方は実はより密になっていて、しっかりした礎石があったのだろうとも思われ、今回は一番外側の柱列なので、鏡柱や脇柱にはもっと深くしっかりした礎石があったのだろうと考えられる。

二の丸側の現況道路で54.5という数字が1ヶ所出ているが、今回の礎石の底面が54.0となっている。この道路下の路盤の工事次第だが、二の丸側の礎石もまだ残っている可能性は十分あると思う。二階建ての瓦葺きのこの豪壮な門にしては、本当に縁辺しかかかってないからだと思うが、もう少ししっかりしたものが入っているものと正直想定していた。今回の図面にさらに断面図を加えて、攪乱状況もわかるような図面も含めて検討されるといいと思った。

事務局： 石組側溝の上面と礎石の底の差というのは、この場で数字をお示しすることはできないが、少なくとも今回検出された自然堆積層の検出面から底面までのところは一番残っているところで約50 cm程度残っていることはわかっている。

北野副委員長： その辺もぜひ検討してほしい。補足をしておくと、石組側溝のルートハンマーの痕跡のようなものについて、国史跡で群馬県に蚕種を貯蔵する風穴の石積みが二つ残っており、一つは明治38年、もう一つは明治40年竣工であり、その二つの遺跡ともルートハンマーの痕跡がある。少なくとも明治38年～40年前後にはそういう道具はあったということなので、そこも参考にして側溝の年代を検討してもらえるといいかと思う。

委員長： 根固め石と思われる石、特に一番東側のものは掘方がわかりづらそうな状況だったが、これはもう地山にかなりめり込むような状況であったということか。

事務局： 一番の東側の礎石跡については、断面を見ても地山との境界の判断がつきづらい状況になっているので、根固め石が地山に食い込んだものが見えているという可能性も考えている。

委員長： 明治時代の事例ではあるが、二の丸の第二師団の洋風の大きな建物で、礎石が3段積みぐらいになっていて、かなり重い建物を支えていたと思われるものを調査したことがある。そこでは周りの根固め石が全部壁の地山にめり込んでいたというのを経験したことがあるので、かなり重い建物があそこにかかっている

た可能性は、そういう点からも考えていいかと思ひ見させていただいた。

深澤委員： 礎石が見つかったことで、考古学的な価値がすごく出たと思うのでよかったと思う。今回面白いと思ったのは、明治以降、焼失後の攪乱など、新しい攪乱の状況が意外としっかり出ているということに驚いた。調査の目的は果たしているが、上層の状況というのも考古学的には別の意味で意味があると思うので、資料や写真に残す等、きっちり記録に残しておいていただければ今後のためになるのではないかと思う。

委員 長： 事務局の方で、ご意見を踏まえて今後もお願いしたい。この地区の調査は続いていくと思うが、その初年度としてまず礎石跡の可能性がかなり高いと認めていいかと考えられるものが発見されたということは非常に大きな成果であったのではないかと思う。

委員 長： 最後の参考資料については、今後のことということでよいか。

事務局： 参考資料については、次年度以降どういう調査を進めていく予定かをお示しするために添付した。今年度調査箇所で礎石跡等が見つかったことで、次年度以降は、これらをさらに検証するために今回見つかった石組側溝や、大手門脇櫓の石垣の際を調査するということになる。次年度の調査箇所については、年度末の委員会の際にまたご報告させていただきたいと考えている。

委員 長： これについては改めて次の委員会で詳しく検討するというところでよいか。

事務局： そのように考えている。

## 〔2〕災害復旧事業の進捗状況について

【資料2】に基づき事務局より災害復旧の進捗状況について説明。

委員 長： この委員会では災害復旧部会について、第3～5回に関しては部会の委員の皆さま以外には今回初めて報告することになるかと思う。

補足の意味も含めて確認させていただきたい。本丸北西石垣および西門石垣についてはすでに復旧工事として発注済みということだが、こちらは復旧工事としてまとめて発注しているがまだ石垣解体はしていないのか。

事務局： 本契約が10月16日のため、現状では仮設備の方までしか手をつけていない。

委員 長： 契約は解体から積み直しまでか。

事務局： その通りである。

委員 長： 災害復旧部会での議論については、かなり簡単な形でご説明いただいたが、何かご質問等はございますか。或いは復旧部会の委員の先生方で何か補足的にご説明しておきたいご意見等はございますか。

風間委員： 復旧規模が一番大きなところは①本丸北西石垣になるが、今設計等を部会の方で議論しており、耐震性を考える上では重要度の考え方も入ってくる。単に技術的な話よりも、そこの道を今後どのように使うか、道路として使うのか、人が入

るのか等を決め、重要度の考え方がそれに左右される。大きな被害がどういう場面で生じるかということを設定する上で、技術的な話以外にどう使うかという話も考慮しなければならないので、方針を示して欲しい。

委員長： 第5回の部会で意見が出て、事務局が検討しているという状況だと思う。安全性を考慮して、現代工法をどこまで入れていくかが今後の様々な検討課題になる。文化財的な価値を守るためには現代工法は極力入れたくないが、安全という問題もあり、その兼ね合いでその場所が今後どう活用されるのか、すぐ下を人や車が通る場所なのか、或いはそこから少しスペースがあるのか等によって、基本的なスタンスも変わると思う。全体として大きくまとめるのではなくて、この面はすぐ下を通るから危険性が高い、或いはこの面はどうかといったことを丹念に検討してほしいというご意見が、第5回部会で出ており、それを踏まえて今検討しているということでしょうか。

事務局： 道路の付近の石垣もあるので、そちらの離隔がどのくらい取れているか等を面ごとに判断した上で、次回の部会でお示しできるよう今作業をしている。

稲葉委員： 今後どのように使うかの方針を示して欲しいという話があったが、工事は令和6年度に終わる予定で矢印が書かれている。災害後は道路を使えるまで3年ぐらいはかかるという話があったが、結局道路として使えるのかどうかはまだ決まっていないという状態なのか。

事務局： 災害復旧工事なので、基本的には原状復帰を考えている。これは石垣もその付近を通っている道路についても然りということ考えている。

委員長： 引き続き道路として現状のまま使うということでしょうか。

事務局： そのご理解でよろしいかと思う。一方で先ほど議題1での大手門の復元の話もある。将来的な話にはなるが、大手門が今後復元された暁には、周辺道路の活用の仕方等には様々な形があると考えられるため、仙台市としても青葉山エリア、その道路の活用の仕方というのは、これまでも継続的に検討を行っている状況である。差し当たり今回の災害復旧に向けては、石垣の復旧が終われば、まずは道路の通行を再開ということを考えている。

委員長： 資料2-2にあるが、11月開催の部会で石垣の面ごとに整理した内容を検討して方針を固めた後、実際に石垣を解体してみたらどうかということも丁寧にチェックしながら、今年度末で予定されている次回委員会でまた皆さんにお諮りしてご了解を得た上で、積み直しまでを含めた工事を進めていくという流れということでしょうか。なかなか大きな仕事なので、事務局にはよろしくお願ひしたい。

委員長： 議事について、他にございませんか。

北野副委員長： 議事1の方で、発掘調査の計画については来年度以降のことも資料で上がっているが、絵図や古写真といった史資料の調査も基本計画の中で、今後大手門

復元に向けて進めていくという計画だったと思う。こちらの方の進捗状況や、検討の中でわかったことも途中途中でこの委員会でぜひ報告いただきたい。特に古写真は非常に貴重な情報であり、ただ写っているからではなくてやはり解析・研究していかないと復元には使えないと思うので、そうしたスケジュール感があれば教えていただきたい。

事務局： 大手門の資料調査については、昨年度までで、主な資料の収集というところまでは終了し、今年度は昨年度まで集めた資料の分析を行い、調査結果のまとめを行うところである。来年度予算等は未定であるが、来年度そういった調査成果を簡単にまとめた市民向けのパンフレットのようなものを刊行する方向で今事務局としては考えているところである。次回以降、委員会で報告できるところまでまとめができ次第、そういったところも含めて報告させていただきたいと考えている。

委員長： ぜひお願いいたしたい。

#### 4. 報告事項

##### 〔1〕クラウドファンディングについて

【添付資料（チラシ）】に基づき事務局よりクラウドファンディングについて説明。

委員長： もうすでに始まっているということでよいか。現状はどうか。

事務局： もう開始しており、さらに強い後押しが欲しいと思い、PR させていただいた。これからも我々の方でも周知をしていきたいと考えているので、皆様の熱い後押しをお願いする。先ほど確認したところ本日現在、寄附金額としては約 310 万円となっており、まだ目標に達していないという状況となっている。

また、チラシには書いてないが、今回のクラウドファンディングは税制上の優遇措置もある。個人であれば寄付金控除の対象になり、法人であれば寄付いただいた金額が全額損金に算入できるということになっている。チラシの裏面にコース一覧があるが、10～12 番ではある程度法人からの寄付を念頭に置いており、こうした高額のコースも設定させていただいている。こちらのコースにご寄附をいただいた場合、石垣の復旧工事期間中にはなるが、工事現場に寄付者氏名を 1 年間掲載させていただくという特典も考えていたため、委員の皆様にはぜひ周知にご協力をいただければ幸いに存じます。

委員長： 目標額が 2000 万円に設定されているが、クラウドファンディングの場合目標額に達しないと流れてしまうのと、そうではないものと二つタイプあると思うが、どちらを採用しているのか。

事務局： 後者の形を今回採用しているので、目標額に達しなくても、ご寄附いただいた金額は寄付金額として受領させていただくという形になる。

委員長： 大山委員のいらっしゃる植物園でも 11 月 9 日まで、資料の標本の管理・整理の費用のためのクラウドファンディングを実施されている。第 1 目標が 400 万円で、現時点で 1400 万円と、かなり成功されているのではないかと思う。お話を聞く

と、様々なご苦勞されているようなので、ぜひ参考にしていただければと思う。  
大山委員からはいかがでしょうか。

大山委員： 高額の寄付に関しては、企業に働きかけ等をしていると思うが、その辺の感触はどうか。

事務局： 高額の寄付についても、基本的には商工会議所をはじめ企業団体等を中心にお願いをしている。昨日も仙台市が東京で首都圏プロモーションということで、仙台にゆかりのある学会や企業の方が大勢集まる会合があり、そちらの場でも PR をさせていただいた。個別の企業への協力依頼はもっとやっていかなければならないと認識をしている。

大山委員： 私どもも正直そこまでのご支援をいただけるとは最初思っていなかったが、やはり一つは植物や標本に関心を持っていただく方にどれだけ呼びかけるかというところと、SNS が盛り上がるとかなりのご支援が集まった経緯があるので、SNS も活用していると思うが、より使っていただけたらいいかと思う。

委員長： 事務局にもぜひ頑張ってもらいたい。

## 〔2〕その他

委員長： その他については、特に事務局の方ではないということなので、予定されている議事は以上となる。委員の皆様方から何かその他でご報告いただくこと含めて無いようでしたら、本日の議事及び報告は以上で終了とさせていただきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

事務局： 本日オブザーバーとして、ご同席いただいております宮城県文化財課より一言頂戴したい。

宮城県： 今回発掘調査については、大手門の一部が残っていたということが明らかになり、大きな成果だというように感じた。委員の皆様方からお話があったようにその一方で、新たな課題として大手門脇櫓との関係、どのような取り付きになってくるのかは今後の整備復元に向けての大きな課題になってくるので、それについてはより詳細な調査によって明らかにしていただきたい。とりわけ今回検出した石組側溝は近現代という解釈だったが、すべての石が近世に遡るのかどうか、また KS-1216 による改変を受ける以前に石組側溝の一部の石材が抜き取られている可能性があるとの話もあったが石組側溝が比較的近世の現位置を留めているのかどうかといった検討が必要である。また委員からもお話があったような根石の問題、これが本当に根石なのか、それともいわゆる坪地業の一部になるのかというような新たな課題も出てきたので、その辺を整理していただいて今後の復元に活かしていただきたい。もう一つが、調査成果とは直接かかわらないが、このようなすばらしい成果を、やはり市民の方、県民の方、地元の方に幅広く知っていただく機会をぜひ設けていただきたいと感じた。

## 5 閉会

以上